

『授業アイデア例』は他教科にも活用できます！

平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査も今年で10年目を迎えました。9月末に結果公表があり、過去の調査と同一問題の正答率が上昇したことや上位県と下位県との経年変化についても縮小傾向にあること等、改善されてきていることが明らかにされました。この調査結果を踏まえて授業改善・充実を図る際の参考となるよう『授業アイデア例』が作成されています。『授業アイデア例』には、以下のように、他教科にも生かせる授業改善のヒントがあります。参考にしてみてください。

全国学力・学習状況調査『授業アイデア例』
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>



図1 平成28年度『授業アイデア例』 小学校(左) 中学校(右)

〈小学校算数の例からの活用〉



〈単元名やめあてづくりに生かす〉

タイトルやサブタイトルから活動や付けさせたい力が分かるため、単元づくりや単位時間のめあてづくりの参考になります。



「グラフを批判的に考察しよう」

様々なグラフを批判的に読み取り、目的に応じてグラフを表現し直す～

〈問題提示に生かす〉
 複数の資料を比較させることで共通点や相違点に気付かせやすく、課題をつかませる際に役立ちます。

2つのグラフの変化の様子を比較し、1日あたりの幅の違いに気付く。

10時から11時までの間で、隣の日とくもりの日のどちらの方が気温の変わり方が大きいでしょうか。

10時から11時の間の気温の変化を比べると、くもりの日の方が、グラフの傾きが急に見えるから、気温の変化も大きいと思います。

でも、10時と11時の気温を比べてみると、隣の日は21℃から23℃で、くもりの日は19℃から20℃です。

1日あたりの幅が違えば、グラフの傾きだけでは比べられない。

〈考え合う場面に生かす〉

子どもたちのやりとりの例です。子どもたちの考えが深まっていく姿から、視点のめあせ方や話し合いのまとめ方の参考になります。

10時から11時までの間で、隣の日とくもりの日のどちらの方が気温の変わり方が大きいと思えます。

グラフ全体を見ると、隣の日は気温の変わり方は大きいけど、くもりの日の気温の変わり方はあまり大きくありません。

1つのグラフに比べると、隣の日とくもりの日の気温の変わり方が比べやすくなる。

ポイント グラフの特徴について考察したことを基に、目的に応じたグラフに表現し直すことが大切です。

〈思考を深める発問に生かす〉

先生と子どもたちのやりとりの例です。どのような発問が子どもたちの思考を深めるのか参考になります。

その教科だけの授業改善に生かすだけでなく、他教科での授業づくりにおいても参考になるポイントがたくさん示されています。『授業アイデア例』から、授業づくりのヒントをつかむことで、授業改善へつなげることができます。



『西部型授業』シリーズ！見通す過程編

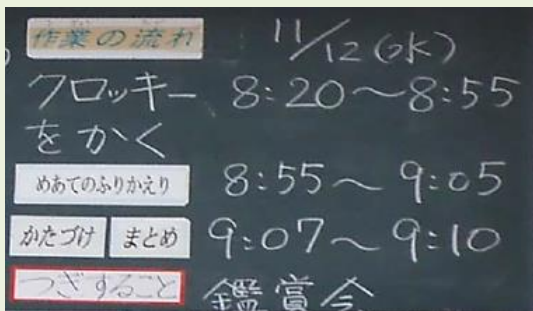
『西部型授業』のシリーズ第2弾として、「見通しをもつ」ことについて紹介します。学習の方向性をつかむ上で見通しをもつことは大切です。見通しをもたせていなければ、活動の途中で指示が多くなったり、子どもたちが学習へ意欲的に向き合えなかったり、思考を停滞させたりすることになります。限られた時間の中で課題解決へつなげるために、以下の3つのポイントに留意し、学習の方向性をつかませることが大切です。

既習事項との関連，使用する道具の例示，資料の活用など，何をどのように学んでいくとよいのかを子どもたちが考えることができる手掛かりを見通しでは大切にしていきましょう。

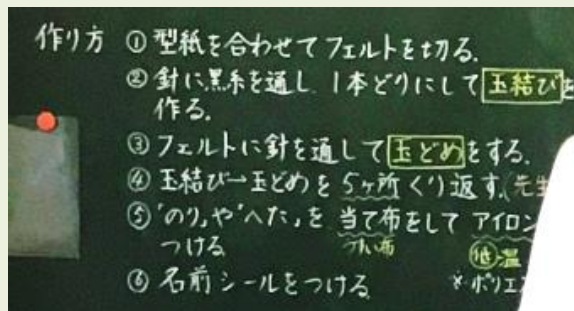


学習の方向性をつかむ

ポイント1 流れ 活動の順序や時間帯をわかりやすく示す

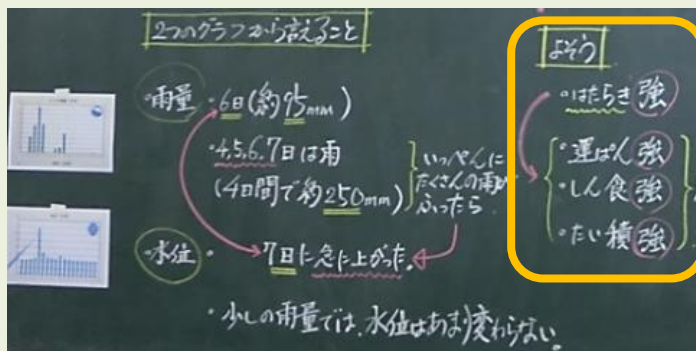


活動の時間（図工）

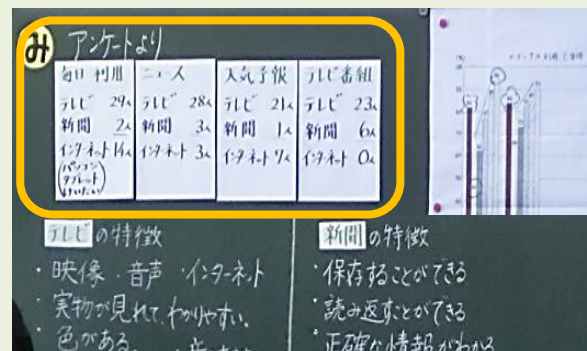


活動の手順（家庭）

ポイント2 予想 数値を見積もったり事柄の概要をイメージしたりできるようにする

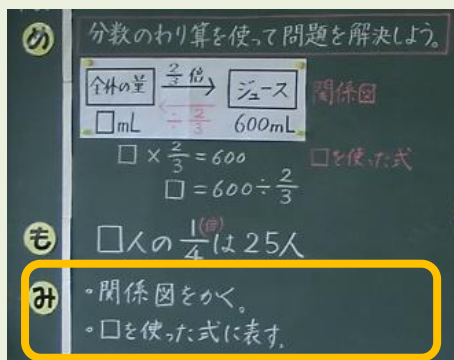


実験結果の予想（理科）



アンケート結果を基に考える（社会）

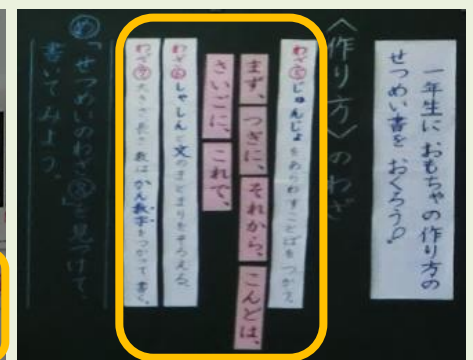
ポイント3 方法 既習事項等を活用して，課題解決のための方法を考えさせる



解決の手順（算数）



活動のポイント（体育）



既習事項（国語）

- ポイント1** 可視化しておくことで，自分でも確かめることができる効果的な手だてとなります。
- ポイント2** 結果を予想したり，概要をイメージしたりすることで，意欲的に学ぶことができます。
- ポイント3** 解決方法の見通しをもたせることで，主体的な学びにつながります。

